

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200585
法人名	オフィス藤田有限公司
事業所名	グループホーム 燦々(さんさん)
訪問調査日	平成 22 年 3 月 30 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670200585		
法人名	オフィス藤田有限会社		
事業所名	グループホーム 燦々(さんさん)		
所在地	鹿児島県薩摩川内市永利町970番地 (電 話) 0996-22-3961		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年3月30日	評価確定日	平成22年4月27日

【情報提供票より】(平成22年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.51 人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円 (水光熱費)
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	長谷川医院・ひがしクリニック・Kメンタルクリニック・若松歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りは畑と同法人のデイサービス、九州電力の事業所がある。小さな公園の桜が咲きほこり散歩に出る利用者の目を楽しませている。管理者は職員が認知症を正しく理解し利用者自身が持っている癒える力を引き出せるように、ホームでの年間計画を立て昼と夜の部で研修会を行うなど職員教育の充実を図っている。また、管理者が認知症サポーター養成講座を担当し、地域の方々にも認知症に対する理解を深めてもらう機会を作っている他ほか、家族の無記名アンケートを毎年行い、家族の意向を運営に活かしている。地域、家族、職員が共に利用者を支える取り組みがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題はなかったが、運営推進会議での家族の参加を固定せず、全家族に案内をしてみてもどうかというアドバイスを受けて、改善に取り組んだ所、家族の参加が増えより多くの意見を聞けるようになるなどサービスの向上に繋がっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価の項目に沿ってではないが、職員に対し常日頃から伝え確認していることであるので、ホーム長と話し合っ作った評価表を職員に見てもらい、意見を付け加えながら作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回開催され、地域代表、市担当職員、家族などが参加している。事業所の行事の様子を写したスナップ写真を掲載した会議資料で報告している他、市の実地指導や情報の公表などについての結果報告もしている。会議を通して、地域の行事情報を得て利用者の参加に繋げたり、地域代表の協力で消防団の方々や連絡をつけてもらい、ホーム内を見学して頂き協力をお願いすることができたこと等、運営に活かした取り組みとなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回ある家族会での無記名アンケート、運営推進会議への参加、苦情相談の第三者委員の設置や面会時など、家族が意見を表せる機会を多く持つようにしている。家族から頂いた苦情や意見は、受付簿に記入し職員と話し合い、その結果についても家族に報告すると共に、運営推進会議でも必ず報告しオープンにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの近隣の住民とは、行事に参加してもらったり、散歩時に声を掛け合うなど交流している。自治会に加入し、地域の季節毎の祭りに参加したり、資源回収の協力、小学校との交流、地域の文化祭に利用者や作ったちぎり絵の作品を出品するなど地域との交流も深まっている他、地域消防団や九州電力の事務所には24時間勤務者が居るため災害時の協力もお願いするなど連携している。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、開設当初からの理念を職員と話し合い、より具体的で職員が認識し動きやすい理念に作り変えている。「専門的な介護の提供」「地域で暮らす支援」「偏見撲滅への取り組み」の三本柱を掲げ、それぞれ具体的な内容を補足した文章をつけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲げ、日常生活の支援の中で確認できるようにしている他、カンファレンス等で理念についての共有にむけて認識が一致できるように指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の季節の祭りに参加したり、資源回収などにも協力している。近所の独居の方を行事に招待したり、九電の事務所の方に参加してもらい消防訓練を行うなど、地域との繋がりを深めている。又、認知症サポーター養成講座を開催し地域の方への理解を得られるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ホーム長と話し合っ作成したものを職員に読んでもらい意見を記入してもらいながらまとめている。管理者が常日頃から指導してきた内容について改めて必要性を感じるなど、職員はケアに対する振り返りの機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、定期的に行われている。事業所から利用者の様子や行事参加についての報告後に、事業所の課題についての意見交換をしている。地域代表から行事の情報を得て、地域文化祭に利用者が出品したり、地域消防団との連携ができ避難誘導についてのアドバイスを受けるなどサービスに活かしている。		

鹿児島県 グループホーム燦々(さんさん)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は困難事例の相談や情報を交換したり、グループホーム協議会の川薩支部副会長を務める立場から市町村と連携を図りやすい体制づくりに努めている。また、認知症サポーター養成講座の講師として市と連携し地域に理解を求めて行きたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎の「さんさんたより」には日頃の様子を写真入りで伝え、行事予定や職員異動の報告等も掲載している。また、毎月1回、管理者と職員により個々の健康状態を記した手紙と金銭出納帳のコピーと領収書を送付している。家族の面会時には情報を提供し、現状と今後の方向性についても話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や苦情を表せる機会は、年1回の家族会、運営推進会議、第三者委員、面会時等である。家族会では必ず無記名アンケートを行い、家族の要望や満足度などを知る機会としている。出された意見や苦情等は、受付簿に記入し職員と話し合った結果も家族、運営推進会議等で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は行わないようにしているが、運営上必要な場合には、馴染むまでの期間を十分とって利用者に影響がないように配慮している。管理者は職員との面談を持って、ストレスや悩みなどを把握できる体制をとることで、離職を最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での年間研修計画を作り必要なマニュアルの研修を行っている他、事業所独自の調理、ゴミ、洗濯などの勉強会も行っている。また、各種委員会活動、外部研修などに参加すると共に、資格取得に向けた講習会も管理者が開くなど、資格取得に向けた支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水・川薩地区グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会や交流会に参加している。実践者研修場所として受け入れているが、職員が他の事業所との相互訪問に行くまでには交流は無かったが、今後職員の人数が増える予定なので検討中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に見学に来てもらい雰囲気を感じてもらうようにしている。また、計画作成担当者か介護リーダーが利用者の自宅を訪問し、生活環境を把握しホームでの生活に安心していただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬うという理念のもとに、郷土料理の作り方や人としての生き方や知恵を教えてもらった時には、感謝の言葉を伝えている。共に喜び合ったり、利用者から気遣ってもらうなど支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどうしたいか直接話せるような雰囲気づくりを心がけ、表情や会話など日常の関わりの中から把握するように努めている。気づいたことは介護記録に、状態、行ったケア、ケアに対する反応を記録し、ホーム長に伝え申し送りをし共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議を月2回行い、職員には認知症の理解を深め利用者の気持ちを言葉にしてもらい気づきを導きだし、具体的目標を掲げ実践している。担当者会議に家族が参加できない場合は、話し合いの内容を見てもらい意見を頂き、職員の気づきと共に計画に反映させ、本人本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと、一人ひとりの担当職員から情報を収集し、体調の変化や薬の変更、本人や家族の要望があった場合には、カンファレンスで話し合い、計画を修正したり追加しているが、退院の場合などは新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療との連携を活かし、看護師による健康管理、協力病院による往診など、事業所内で治療を受けながら、生活できる体制が整っている。本人や家族の希望により病院受診や買い物等支援をしている。又、近隣の知人との交流に職員と一緒に自宅に帰えるなど柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医を継続している。受診は家族の協力を得ながら行っているが、要望があれば職員が付き添い、適切な医療が受けられるように情報を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志の確認書を作成し、家族には事業所が対応できる最大のケアについて説明している。家族と主治医、関係者が話し合う機会を設け、方針を決定している。今年は一人の看取りを行っている。職員には看取りについての勉強会を行い対応を統一している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー(羞恥心への配慮、排泄時のさりげない声かけ、個人的なことは聞こえないように、ファイルなど記録物への配慮など)の研修を行っている。個々に合った声かけを鹿児島弁も丁寧な言葉遣いで行うように指導し、職員会議等でも職員の中から問題点を上げて話し合いをしている。記録物の保管も適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間など決められたものではなく、利用者の体調に合わせ支援している。利用者から希望があれば買い物に行ったり、自宅に帰ったりしている。また、個人で牛乳を宅配してもらっている方もいる。		

鹿児島県 グループホーム燦々(さんさん)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調と力量に合わせて、野菜切りや味見、盛り付け、ランチョンマットを敷いて準備を手伝っている。食事前には食事の意識付けと嚥下予防の口腔体操を行っている。職員と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室内にはトイレが付いているため、急な排泄に対応している。入浴は曜日毎に入浴予定者を決めているが、利用者の体調に合わせ臨機応変に対応している。日曜日は足浴の日とし、足浴専用の場所を作り、利用者は楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることを発揮し継続してもらえるように支援している。洗濯物たたみ、ランチョンマットを敷いてコップを準備する、新聞折りなどを役割としている。楽しみ、気晴らしは、年間や季節毎の行事のほか、レクリエーションやハイキングや外食など支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースは桜の花を眺められるため、利用者の体調に配慮しながら車椅子の利用者も出かけている。また、中庭でお茶したり、買い物や道の駅、イルミネーション見物へのドライブの他、デイサービスの送迎時に便乗し気分転換をはかるなど、戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけずに自由に出入りできるようにしている。外出傾向の利用者を把握し、職員の連携と見守り、時間ごとの利用者の確認で対応している。どうしても外出したい場合には、職員がついて行き本人の納得いくまで歩いてから帰宅するようにしている。近隣への連絡の協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署指導の下での避難誘導、通報、消火訓練を行い、毎月1回、通報の自主訓練を行っている。地域の消防団にも防災訓練に参加してもらいことができ連携が取れるようになっている。非常食の準備もできており、今後自動通報装置と警報器の設置が予定されている。		

鹿児島県 グループホーム燦々(さんさん)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行っている。食事形態は利用者の状態に合わせミキサーや刻みにも対応し、摂取量が少ないと思われた場合には、栄養補助食品などで対応している他、水分摂取の困難な場合には、ゼリーなどで工夫している。毎月体重測定を行い健康管理も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が中央にあるため、食事を作りながら見守りや会話ができ、車椅子の方にも対応できる流しも設置している。また、中庭に面して和室もあり、洗濯物たたみやお昼寝、日曜日の足浴などができる。壁には、思い出の写真や季節毎の飾り物やちぎり絵が飾られて利用者を楽しませている。換気にも十分配慮しており、臭いも無く清潔感のあるホームである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳みの部屋が4箇所あるが、布団を敷いて休む方、畳みにベッドを置いて生活している方とそれぞれである。使い慣れたタンスや、大好きなテレビ、テーブルとポットを置いてお茶を飲めるようにしている方、掛け軸や化粧品、大切な家族の写真などを置いて、自分らしい居室で過ごせるようにしている。		